

都市再生整備計画

た け た し ちゅうしん し が い ち ち く
竹田市中心市街地地区

おおいた た け た
大分県 竹田市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大分県	市町村名	竹田市	地区名	竹田市中心市街地地区	面積	30.6	ha
計画期間	令和7年度～令和11年度	交付期間	令和7年度～令和11年度					

目標

大目標：交通結節点の再整備を核とした利便性・安全性の向上とヒトの流れの創出による“活気ある中心市街地の形成”

目標①：誰もが、安心・安全に利用・交流できる駅前空間を「創る」

目標②：中心市街地と市内周辺地域、竹田市と他地域を「結ぶ」

目標③：豊後竹田駅と城下町（中心市街地）を「繋ぐ」

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・竹田市は、大分県南西部に位置し、近世以降岡藩の城下町として整備され、奥豊後の政治・経済・文化の拠点として栄え、滝廉太郎などの文人・先哲を数多く輩出する土壌を培い、中心市街地に残る城下町の町並みの風情が随所に感じられる都市である。

・本地区は、本市の中心市街地に位置し、第2次竹田市総合計画や竹田市立地適正化計画において、都市拠点として位置づけられる、本市の顔となる中心市街地内にあり、また、豊後竹田駅は広域圏からの玄関口にあたる。

【まちづくりの経緯】

・平成14年に策定した「竹田市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成22年からは「城下町再生プロジェクト構想」を立ち上げ、東京大学景観研究室の協力の下、中心市街地の再生に取り組んできた。本基本計画の重点的な事業の絞り込み、中心市街地の関係者等の密接な連携を目指し、平成26年に策定した「竹田市都市再生まちづくり基本計画」に基づき、竹田地区都市再生整備計画や竹田市中心市街地活性化基本計画を通じて、歴史文化館・由学館や竹田市中心市街地交流プラザなどの拠点施設の整備、歴史的風致や街なみ景観の保全・活用による城下町再生を目標に取り組み、中心市街地の活性化に大きく寄与してきた。

・しかし、依然として少子高齢化や人口減少が急速なペースで進行しており、中心市街地においても人口の減少、活力の低下が進展しており、豊後竹田駅も公共交通利用者の低迷、豊後竹田駅から城下町（中心市街地）方面への回遊性の弱さなど、交通結節機能や人にやさしい交通環境が十分とは言えない。

・第2次竹田市総合計画では、将来像は「人が輝き 未来へつなぐ いのち溢れるまち『竹田』」とし、医療・福祉、都市基盤等を整え、安全・安心なまち、産業が元気で多様な働き方が選択できるまち、多くの人で賑わうまちを創造するとしている。将来都市構造においては、3種類の拠点地区と2種類の連携軸を設定し、豊後竹田駅周辺や国道57号沿いの商業エリア等を含む地区を「都市拠点地区」と位置づけ、高次な都市機能が集積し、多様な都市的サービスを提供できる地区と設定している。

・令和6年からは、「豊後竹田駅周辺整備事業検討委員会」を立ち上げ、駅を拠点として城下町への散策や他地域等への流れを誘導し、市民・来街者の滞留・交通を通じて賑わいを創出すること、また、鉄道、バス、タクシー、レンタサイクルなど様々なモビリティの集約された交通拠点の整備を図る検討を進めている。

【豊後竹田駅周辺の現況】

・現在の駅前広場は主に、自動車交通主体の広場になっており、歩道もなく、歩行者が自動車交通と錯綜し、歩行者の安全性が疎外されている。またバス・タクシー・送迎車両などの車両交通の錯綜、特急バスと鉄道との乗り継ぎ利便性の低さなど、交通結節機能全般にわたる問題も残っている。さらに、広域からの玄関口としての情報発信機能、城下町竹田を印象付けるランドマーク性、まちなか回遊を誘発させる環境も十分とは言えない。

課題

・豊後竹田駅周辺は、都市拠点の玄関口にふさわしい交通結節機能、安全性、周辺地域との連携が不足しており、バス、タクシー、送迎車、一般車、歩行者等、多様な交通モードの利便性や安全性に配慮した交通空間、歩行者空間の整備が求められる。

・中心市街地のゲート空間にふさわしい景観形成や、人々を中心市街地へ来街者を誘導する環境の創出が求められる。

将来ビジョン（中長期）

①第2次竹田市総合計画（R5～R14年度）／令和4年度策定

・将来像ー「人が輝き 未来へつなぐ いのち溢れるまち『竹田』」

・将来都市構造ー豊後竹田駅周辺や国道57号沿いの商業エリアを含んだ2つの地区（竹田・豊岡地区、玉来・松本地区）は高次な都市機能が集積し、多様な都市的サービスを提供できる地区として、「都市拠点地区」に位置づけ

②竹田市都市計画マスタープラン（H27ーR12年）／平成27年3月策定

・まちづくりの基本理念 ～活力に満ち、誰もが誇れる、我がまち竹田～

・まちづくりの基本方針（市全体） ～竹田型コンパクトシティの実現～

1)都市機能・居住機能が集積した都市拠点地区の形成

2)歩いて人とのふれあいを感じる道路整備

3)公共事業の選択と集中

・竹田東部地域の基本方針

地域づくりの目標：「城下町の再生による歴史・文化が薫る竹田中心部の形成」

地域づくりの基本方針

1)竹田市の中心地としてのシンボル性（求心力）の向上

2)文化・芸術等の都市機能の集積

3)生活環境に配慮した都市基盤整備

4)情感あふれる城下町の再生

5)竹楽など地域行事を担う人材の育成

③竹田市立地適正化計画（R4～R27年度）／令和4年度策定

【都市機能の誘導のうちJR豊後竹田駅周辺に関連する施策】

・豊後竹田駅の駅前広場及び駅周辺の整備を推進し、鉄道とバスの交通結節性の向上、パークアンドライド機能の充実を図り、竹田市の玄関口としての拠点性・利便性の向上を図る。

・豊後竹田駅周辺は竹田市景観計画で定める眺望景観エリアに属するため、駅を拠点に駅前の空間から城下町エリアへ歩いて散策のできる人の流れを誘導し、市民・来街者の滞留・交流を通じて賑わいを創出する。

④竹田市地域公共交通計画（R4～R9年度9月）／令和5年8月一部改定

【主な実施事業】

・都市内交通の導入

・観光利用・周遊を想定した公共交通の導入

・地域公共交通の最適な組み合わせの推進

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
豊後竹田駅の年間乗降客数	人／年	豊後竹田駅における鉄道の年間乗降客数の合計	駅前広場、一般駐車場の整備等により、バス、タクシー、送迎車、自転車、歩行等の多様な交通モードにより鉄道乗降客数に反映されることから目標①の指標として設定	221,190人／年	R4年度	221,600人／年	R11年度
地区観光入込客数	人／年	観光動向調査による地区内6つの観光施設の観光客数の合計	地区内6つの拠点施設の観光客の把握により、中心市街地と市内周辺地域、竹田市と他地域を結ぶ目標②の指標として設定。	181,910人／年	R5年度	190,000人／年	R11年度
竹田駅バス停の年間乗降客数	人／年	竹田駅バス停における路線バス、特急バス、乗合バス等の年間乗降客数の合計	交通広場・ロータリーの整備により、長距離バスの乗換えも可能となることで、バス利用者が増加し、中心市街地と市内外の他地域との連携が高まると想定し、目標①、②の指標として設定。	15,236人／年	R5年度	16,200人／年	R11年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
○方針1 誰もが、安心・安全に利用・交流できる駅前空間を「創る」 - 歩行者、一般車、タクシー、バス等の交通動線を勘案した駅前広場の整備 - 駅前広場前交差点に接続する市道改良による交差点の安全性の向上 - 老朽化したトイレの整備 - 照明設備の整備による駅前ロータリー及び駐車場の安全性・快適性の向上 - 雨天時等の乗り継ぎ利便性・快適性を高める環境の整備 - 駅前広場敷地内に駐輪場を整備することによる公共交通機関への乗継ぎの利便性の向上	【基幹事業】 (道路)市道屏風ヶ淵線改良事業 (地域生活基盤施設)駅前広場整備事業 (高質空間形成施設)駅前広場公衆トイレ整備事業 (高質空間形成施設)照明灯整備事業 (高質空間形成施設)キャノピー整備事業 (地域生活基盤施設)駅前広場駐輪場整備事業
○方針2 中心市街地と市内周辺地域、竹田市と他地域を「結ぶ」 - 都市間運行バスバースが確保された駅前広場の整備 - タクシーや送迎者の待機スペースの確保による一般車(送迎車両)の運行の円滑化 - パーク&ライド、短時間駐車に対応など交通空間の機能強化に向けた駐車場の整備(駐車場及び進入口の改良) - 路線バス・特急バスの運行情報、市内観光情報、城下町の店舗情報等の情報発信設備の整備 - 豊後竹田駅にインバウンド向けの情報発信機能を整備することにより、市内周辺地域の観光スポットへの誘客を促進する	【基幹事業】 (地域生活基盤施設)駅前広場整備事業 <再掲> (地域生活基盤施設)駅前駐車場・車路整備事業 (地域生活基盤施設)駅前広場情報案内板設置事業 【提案事業】 (地域創造支援事業)インバウンド受入環境多角的整備事業
○方針3 【豊後竹田駅と城下町(中心市街地)を「繋ぐ」 - 豊後竹田駅を起点とした中心市街地の回遊性を向上させるためレンタサイクルの利用促進を図る - 竹田市のエントランスとしてふさわしいモニュメント等の制作・設置 - 中心市街地の遊休不動産を活用した集客力のあるコンテンツ創出の促進 - 中心市街地の滞在、居住、事業・営業活動における快適性、衛生環境の向上を図るための水路の改良	【基幹事業】 (地域生活基盤施設)レンタサイクル駐輪場整備事業 (高質空間形成施設)モニュメント整備事業 (街なみ環境整備事業)市街地導水路等再整備事業 【提案事業】 (地域創造支援)遊休不動産活用事業
その他 【その他官民協働の取り組み事例】 - 平成12年から開始された「竹楽」は中心市街地の歴史の道沿いを中心に、里山保全を一体とした市民総参加のイベントとなり、期間中の来場者は10万人を超え、商業の活性化やまちづくり活動の発展に繋がっている。 - 竹田市観光ボランティアガイドによる「文化財施設等の案内」、NPO法人竹田まちなみ会による「城下町の歴史的建造物の修景事業の設計」、岡城・歴史まちづくりの会による「岡城跡と城下町の再生の取組」など、歴史文化資源を活用した様々な取組を進めている。	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

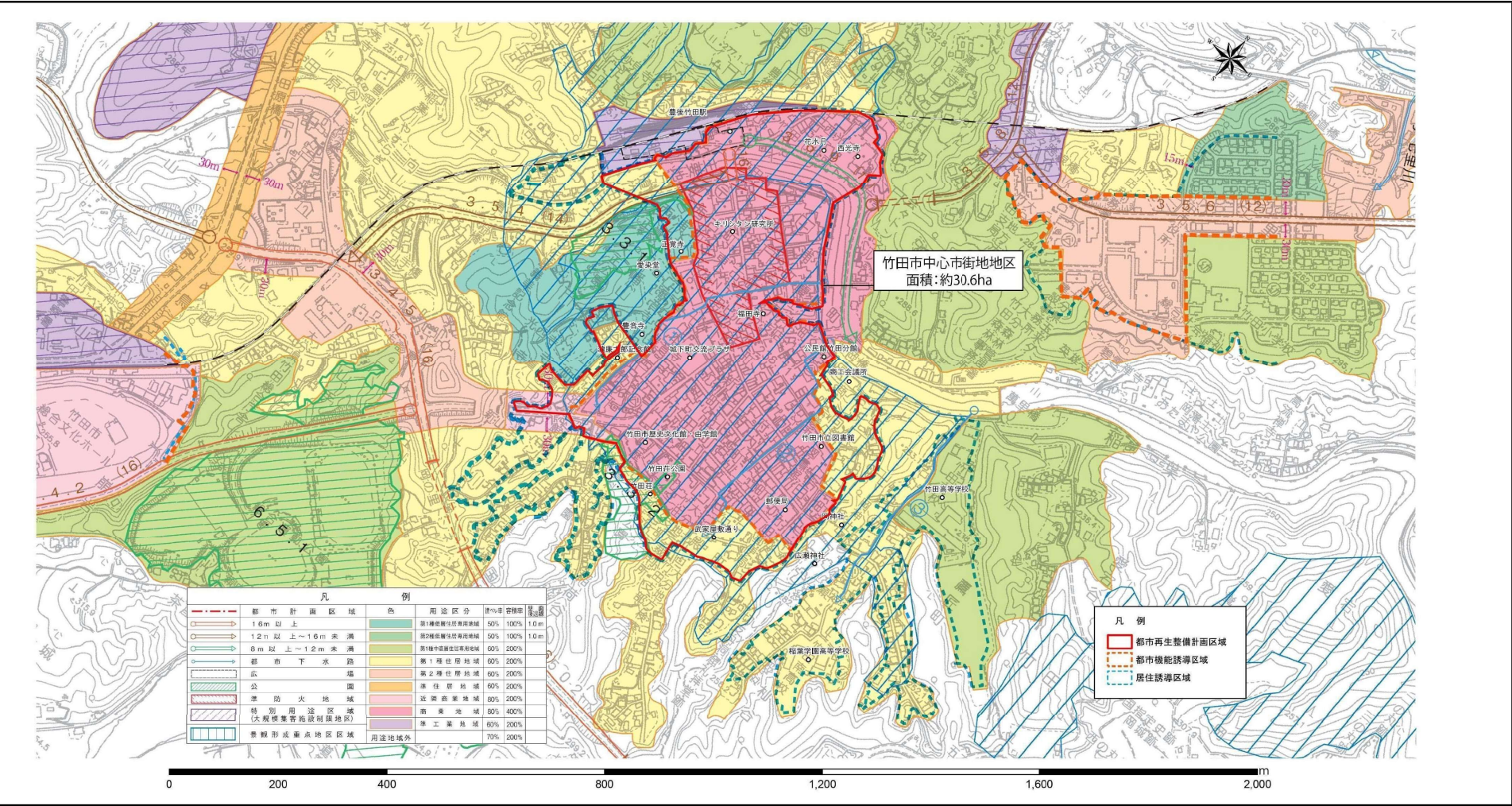
...A

合計(A+B+C)	688.5
-----------	-------

|(参考)都市構造再編集中支援関連事業

〔参考〕関連事業

竹田市中心市街地地区(大分県竹田市)	面積	30.6	ha	区域	大字竹田、竹田町、大字会々
--------------------	----	------	----	----	---------------



竹田市中心市街地地区(大分県竹田市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標: 交通結節点の再整備を核とした利便性・安全性の向上とヒトの流れの創出による“活気ある中心市街地の形成” 目標①: 誰もが、安心・安全に利用・交流できる駅前空間を「創る」 目標②: 中心市街地と市内周辺地域、竹田市と他地域を「結ぶ」 目標③: 豊後竹田駅と城下町(中心市街地)を「繋ぐ」	代表的な指標	豊後竹田駅の年間乗降客数 (人/年)	221,190 (R4年度) → 221,600 (R11年度)
			地区観光入込客数 (人/年)	181,910 (R5年度) → 190,000 (R11年度)
			竹田駅バス停の年間乗降客数 (人/年)	15,236 (R5年度) → 16,200 (R11年度)

